

日本語の再発見

カタカナ

カタカナは、平がなと異り、初めは、僧侶が仏典を学習する際に送りがな、ふりがなとしてメモ的に使ふ符号として作られ、使はれたもので、“万葉仮名”の一部を符号として使ったものに由来する。

カタカナの基になった万葉仮名は次の通りである。

ア	阿	イ	伊	ウ	宇	エ	江	オ	於
カ	加	キ	幾	ク	久	ケ	介	コ	己
サ	散	シ	之	ス	須	セ	世	ソ	曾
タ	多	チ	千	ツ	川	テ	天	ト	止
ナ	奈	ニ	仁	ヌ	奴	ネ	称	ノ	乃
ハ	八	ヒ	比	フ	不	ヘ	部	ホ	保
マ	末	ミ	三	ム	牟	メ	女	モ	毛
ヤ	也	イ		ユ	由	エ		ヨ	与
ラ	良	リ	利	ル	流	レ	礼	ロ	呂
ワ	和	ヰ	井	ウ		ヱ	恵	ヲ	乎
ン	无								

第五章 日本の文字

カタカナは、漢字の一部を取ったものが多いので、簡単な点や線で構成されてゐて、書き易いので、漢字を書く学習の基礎練習として適してゐる。それで、戦前の文字学習はカタカナから入り、この読み書きを徹底的に訓練した。また、公用文は“漢字カタカナ混り文”で書かれた。

今は、主として外来語を表記する時に使はれる。だから、外来語の事を“カタカナ語”と言ったりする。これは、戦後の国語施策で決ったことだが、少しでも良かったと言へる施策はこれだけである。

ただし、かなづかひの白痴化のため、“ラヂオ”を“ラジオ”と書き、“ヂンギスカン”を“ジンギスカン”と書くやうになったことは遺憾である。正しい表記を学んでも誤って書くことがあるのは仕方が無いが、初めから誤った表記を教へるのは困った事である。

植物の名、動物の名をカタカナで書く、といふのも変である。学者の間でさういふ規則を作り、学者の間でさうするのは学者の勝手だが、こんな事を一般に押し付けるのは甚だ迷惑である。